

人数制限なし!

エリア制限なし!

ヒートなし!

時間制限なし!

2003 MAMBO MERIMBULA WAVE SALING & WIPIKA KITE SURFING CLASSIC

MERIMBULA AUSTRALIA



毎年11月末に開催され今年で23回目となる(KITE部門は3回目)。表彰はOPEN (上位6名)、ジュニア (18歳以下、1位とコンペ初出場で活躍した選手)、レディース (1位とコンペ初出場で活躍した選手)、マスターズ (35~39歳上位2名)、ベテラン (40~49歳上位2名)、レジェンド (50歳以上、1名)、総合で将来的有望な選手、をウインドとカイトでそれぞれ行う。

PHOTO : AKIHITO MOTONO TEXT:DAI KANEKO

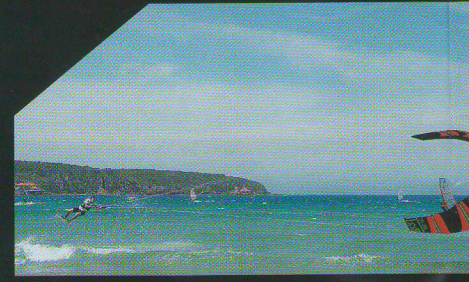
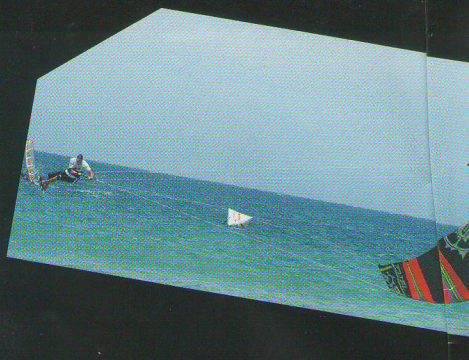
それはJEFFの言葉が きっかけだった

JEFF TOBIASが日本に来たときに彼のカイトループを目の当たりにして衝撃を受けた。JEFFはコンペを中心に活動するのをやめて、ビデオを中心にプロモーションの活動をするという。僕自身、カイトをしない一般の人にもこのスポーツの凄さをアピールできる方法はないだろうか、と模索していた。「海外ではコンペではなくショーみたいなものとしてカイトをアピールするなんて活動はないの?」とJEFFに聞いてみたら、MERIMBULA MAMBOとい

う大会のことを教えてくれた。なんでもその大会は普通の大会のように1ヒート8分などという時間の制限は一切ない。朝から夕方まで好きなときに好きなだけ海に出て自分のライディングをしたいだけアピールすればよい。ゲレンデのここからここまでというパフォーマンスエリアの制限もないし、海で演技する人数も何人という制限はない。こんなユニークな大会だから、選手は本当に限界まで自分の力を出し切ることができるし、見ている方にとっても面白い。KITEをしない一般の人にも楽しんでもらえる、という。200人くらいのライダーが一斉に海に出てパフォーマンスをするという全く新しい発想のコ

ンペティションだ。カイトループなど成功率はあまり高くないし、失敗すれば下ってしまって元の位置に戻るのに時間をとってしまうTRICKでもこういう大会ならば、何度でもチャレンジできるというわけ。制限がないから本当に自分が表現したいことにチャレンジできる。

この大会こそ何か新しいものを生み出す可能性があるのではないかと僕は確信した。それにしても人数も時間も無制限で一体どうやって順位を決めるというのか。それをこの目で確かめたくてこのMERIMBULAの大会に参加した。



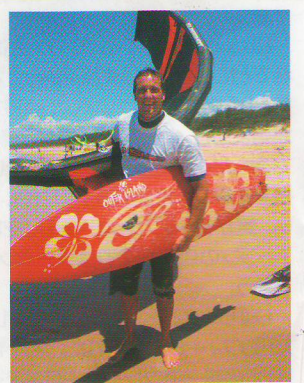
ここで得たもの、感じたこと

この大会では上手いやつがNo.1ではなく、とにかく目をひきつけた者勝ちという感じがした。どんなに難しい技を成功しても観客がわかなければ意味が無い。失敗しても迫力あるライディングであつと言わせたり、乗っているだけでも楽しそうに思わせることが価値があるのだと実感。流行や格好にとらわれず自分の好きなことをすればいい、それが自分のスタイルとなるのだから。それを見て楽しそうと感じてくれる人がいたらそれが最高の幸せなのでは…。

オーストラリアは広くてデカイ。カイトに最適なビーチはごろごろしてるし、10代の若い子が多く楽しんでいる。この国ではカイトはまだまだ発展しつつある将来性のあるスポーツだと感じた。日本にはオーストラリア

ほど砂浜の広いビーチが沢山あるわけではなく、限られたゲレンデを多くのカイトボーダーが共有している。毎年増え続けるカイトボーダーに対しゲレンデはパンク状態になっている。そのなかで安全に楽しむためにはみんなで協力し合わなければ成らない。そして今後のためにも多くの人にカイトボーディングというスポーツを理解してもらい、新たなゲレンデを開拓していく必要がある。日本におけるカイト発展は、まずゲレンデづくりからなのではないだろうか？

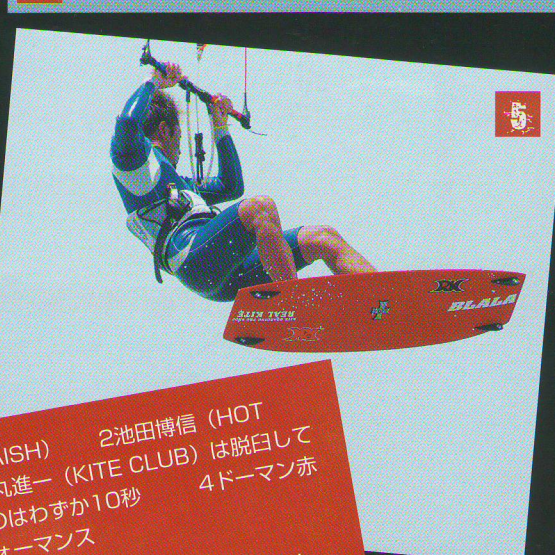
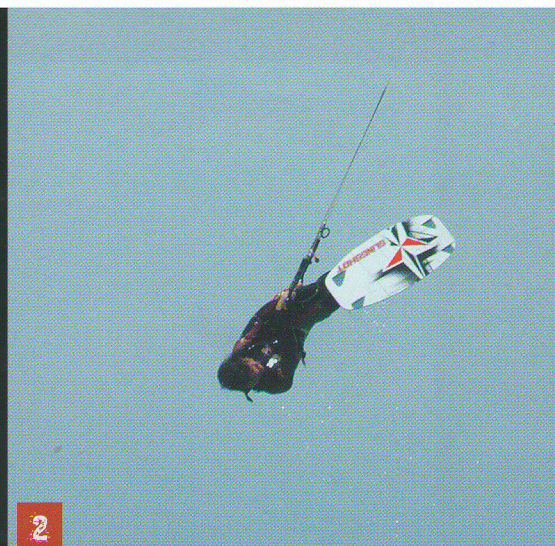
日本は10代のカイトボーダーが非常に少なく、海に囲まれている国のわりにはカイトに適した環境が少ない。オーストラリアと比べるとはおかしなことかもしれないが今後のカイト発展のためにも幅広い層の方々を楽しめるようなより良い環境づくりをしていきたい。



MERIMBULAはベン・ウィルソンの地元でもある。



2



1丸森比紗人 (NAISH) 2池田博信 (HOT BEAT) 3都丸進一 (KITE CLUB) は脱臼してしまし海に出たのはわずか10秒 4ドーマン赤土の豪快なパフォーマンス
 5金子大介 (REALKITE)
 6 オーストラリアの女性は健康的で美人が多い!
 7 大会中のBBQは食べ放題! 8 REDBULL CAR
 9 デーハーな車が多い



7



8



9

体験してきた MERIMBULA MAMBO

20年以上続いているこの大会は世界的にも有名でとにかく楽しむ事が目的とされていると聞いたことがあった。ワクワクした気持ちの中、開会式が始まった。大会期間は朝から夜のパーティーまで含んだ4日間全てだそう。そして海に出て演技をするのは完全に選手の自由、ジャッジ席はない。誰がジャッジかって? BBQをしている人やレストランの店員かそれはシークレットと粹なことを言う。

しばらくすると、過去優勝者プレートの打たれたトロフィーが紹介された。名前を見てビックリ、WSFの超一流プレーヤーが名を連ねていた。もとはWSFから始まったこの大会もここ3~4年で

カイト人口の方が多くなっらしい。次はレジストレーション。これからはまる4日間の大会の登録受け付けをするのだ。エントリーフィーは80ドル。MAMBO Tシャツと参加者の印として切らないと外せない黄色いリストバンドが付けられる。(大会の名前入りタイラップだったけど...)そしてなんと4日間、朝、昼食べ放題BBQとRedbullまで付いてくるのだ。

歴史ある大会の中でも日本人の出場は初めてらしく地元メディアにも紹介されていた。大会会場では小さい子供からみんなが声を掛けてくれた。これはアジア系の顔は珍しいからではなくここではフレンドリーなのが当り前の行為だという事を感じた。

穏やかな雰囲気の中、風が吹き始めカイトが少しずつ上がりはじめた。カイトサイズは様々で小さなカイトでノーストラップのサーフボードを使

い波のりをしている人もいれば、ラインが切れるほどの凄まじいカイトループを連発する選手もいる。とにかく使っている道具も様々だがライディングスタイルやトリックも様々。そしてレベルが高く迫力もある。エアーは高く、スピードも速い。ゆえに何十機と上がっているカイトの中ではリスクも高くなる。とくにインサイドはウェーブで下る人とエアリアルトリックをする人が何度か絡んでいた。いい波に乗ることや良いポジションでのトリックをしたいのならば積極的に突っ込んでいかないと限り思うようにやらせてはくれなかった。危険を伴う分消極的になってしまう自分に対し回りはおかまいなしにガンガン攻めてくる。危険に対しての意識が低いのか何も考えていないのか分からないがメンタル面で負けていたような気がした。



知られざるKITEの天地

MERIMBULA AUSTRALIA

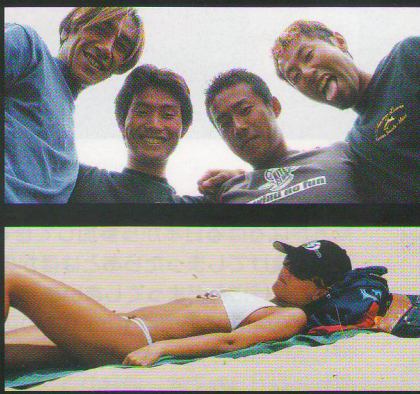


PHOTO : AKIHITO MOTONO TEXT : MARU

MERIMBULA

メルンビュラはオーストラリアの首都シドニーから南へ500km、車で7時間、飛行機で1時間だ。緯度はそんなに低くはないが想像以上に南国っぽいムード。ペリカンやオウムをはじめ、カラフルな様々な種類の鳥がそこにいる。鳥に限らず野生のカンガルーに出くわすことは珍しくないし、カイト中にイルカに出会う(今回、金子は間近に遭遇した)。クジラも多く、ホエールウォッチングはメルンビュラ観光の目玉のひとつにもなっている。日本では体験できない自然環境にまず驚かされる。

この町は日本では地図で探すこともガイドで情報を得ることも困難なほど知名度がない。しかし、実際行ってみると日本人には知られていない秘密のスポットを見つけたような得た気分になること請け合いだ。温暖でカラッとした気候は快適で、何よりどこまでも続くように見える広いビーチには驚かされる。適度に立った波でサーフィンもカイトも楽しめる。夏(日本では冬)は落ち着いた雰囲気の良い海辺をエンジョイしに国内外から大勢の人が集まってくる。12月に入ると夏期休暇がはじまり、MOTELなどのアコモデーションは活気づく。そのおかげで人口5,000の小さな町ながら明るく華やかな雰囲気を醸し出している。それでいて観光化されすぎて俗っぽいわけでもない。ビーチも広いのでどれだけ人が来ても混むという感じはしないくらい。純粋にビーチを楽しむには最高の環境ではないだろうか。





1 大会後の表彰式の一コマ
 2 大会期間中のダンスパーティー
 3 張り切る池田
 4 ドーマン赤土の名が地元新聞に掲載された!
 5 DANCE! DANCE!
 6 ドーマン赤土は準優勝!
 7 日本人チームは暖かく歓迎を受けた
 8 調子に乗る金子(うそ)



インタビュー

MERIMBULA MAMBO 主催者 JOHN SMYTH (ジョン・スマイス)さん

この一風変わった大会は普通のコンペと形式が違うだけなのです。実際、通常の形式のコンペで上位に入る人はこの大会でも上位でトロフィーをもらうことが多いです。普通は8分とか10分とかで勝敗をつけます。この大会のルールはただひとつ。つべこべ言わないことです。風が足りない、風が強すぎる、などなど。とにかくエンジョイすることが大事なんです。そして普段の自分の実力以上の演技にチャレンジすることです。ここでは選手たちは、海に出たくないときはBBQを楽しみリラックスしてビールを飲みながら自分にとって一番いいときに海に出て自分の本領を発揮すればよいのです。海に出ていないときでもうまい選手のライディングを見てインスパイアされて自分の浜に帰ったときに、この大会を見ることで得たイメージで自分の腕も上がるのです。選手にとってもヒート形式

でないこのやり方は楽しめるはず。あなたの方がはるばる日本から参加してきてもし1回戦で負けてしまったらあとはほかのヒートを見るだけにとどまってしまうから。

評価の対象はその選手がKITEの可能性を押し広げるような良いパフォーマンスを多く見せたかどうかです。通常のコンペティションではクラッシュを恐れて試みられないようなマヌーバーをして果敢と攻めるようなものは大歓迎なのです。普通のコンペティションだと3回、4回とクラッシュが続くと思うと挑戦しにくいものだけど。あとはウエイブライディングです。ターン、オフザリップ、エア、など波乗りのパフォーマンスがきれいだと見た目も美しいです。

どうやってジャッジするかよく聞かれます。誰がジャッジかは秘密です。海に出てあなたの後ろでセールしている人がそうかもしれないし、レスキュー艇に乗ってチェックしているかもしれません。BBQのスタッフもジャッジかもしれません。もしかして夜のパーティーでバーのカウンターにいる男かもしれません。(笑) 10人ちょっとの人数でたくさんの選手を長い時間見続けて評価してい

ます。ビーチにいる人たちにたくさん話しかけてこれという選手にメボシをつけることもしています。一緒に来るグループの人たちがビーチにいれば、海にでている選手が普段どんなライディングしているか、今、何にチャレンジしているか、などの情報を聞き出しておくのです。カテゴリー別に誰が一番活躍していたかをジャッジ同士で毎日話し合います。そして4日間続けて違うコンディションでのライディングを全部通してカテゴリー別に総合的に選手を評価するのです。チェックシートというものはありません。ジャッジによってはウエイブを評価する人もいるし、またエアに重きを置くジャッジもいるでしょう。

地元に対しても大きな影響を持っています。地元の小さい子ども達もこの大会を見てこのスポーツに興味を持ち始めます。実際、大会後にKITEを始めたいけどどうすればいいか?という連絡ももらいました。新聞、テレビにも報道されました。地元の人たちにもカイトというスポーツがここMERIMBULAの町のひとつの個性とも受け止められてきています。



DATA

MERIMBULAまでのアクセス

国際線でシドニーまで行き、そこから国内便 (REGIONAL EXPRESS) に乗り換える。シドニー～メルビュラは1日2便。

治安

世界でも有数の安全な場所だろう。ちなみに我々が滞在している間に池田が発砲する音を聞いて震え上がってしまうという事件が起こった。が後になってこれは動物を駆逐する音であることが判明。

通貨

オーストラリアドル (AUD)。町中でATM機は簡単に見つかるのでカードでおろすことも簡単。

宿泊

宿泊施設はゴマンとある。おすすめはビーチの目の前。我々が借りたのはAPOLLO APARTMENT。その快適さ、広さは日本の基準ならば超高級リゾート施設レベル。2部屋を7人で借りて1泊あたり1日わずか¥2,000程度だった。12月に入ると夏期休暇がはじまり宿泊料金も一気に値上がりするので直前の11月下旬がねらい目だ。

移動手段

車の運転は日本と同じ右ハンドルなのでレンタカーをしても不安はない。ビーチの目の前に宿泊していれば車なしのステイも可能ではあるが、ベストな風向きを求めてあちこちビーチを変えたいムキにはやはり必要かも。

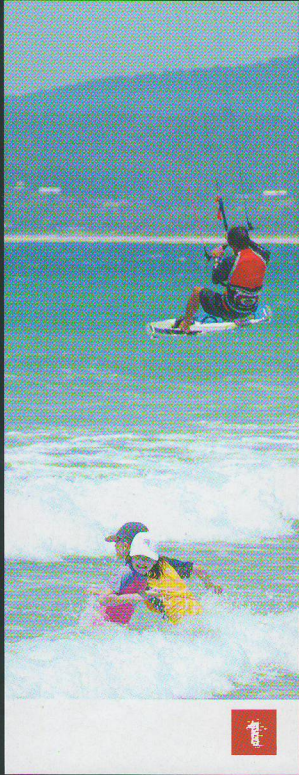
カイト以外のアクティビティ

風がないときにもやはり海を楽しみたい。もしできるならサーフボードを持ってくると良い。信じられないくらい良い波を独占できるから。もちろん、ボディボードも。ホエールウォッチングも盛んで、もしクジラが見られなかったら半額返金という業者もある。イルカのいる洞窟にダイビングするというガイドのサービスもある。

食事

有名なのは牡蠣、ロブスター、エビ類など。牡蠣は小ぶりでも大きなものと比べて臭みがなくクリーミーなのが特徴。生牡蠣、表面を少し焙ったものなど様々な調理で食べたがどれも非常にうまい！ 折角この地に来たのなら贅沢にロブスターも良い。メルビュラは観光地なので和食はないがタイ、メキシコ、中華など様々なメシが食えるので試してみるのも一興。





1



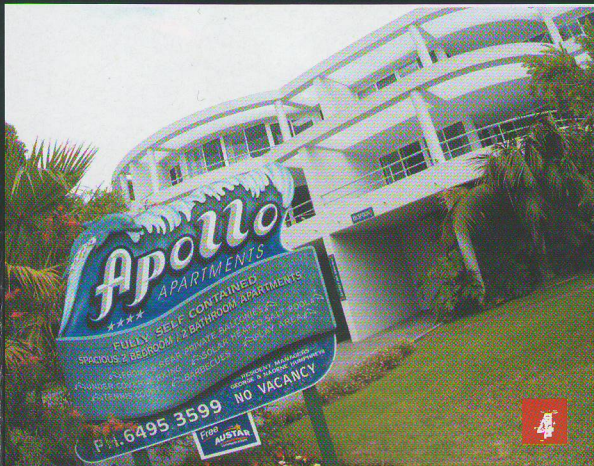
2



3



4



4

1 丸森。おいおい子供がいるよ。 2
 WAVEをエンジョイする金子 3 メ
 リンビュラからパンピラまでミニクロス
 カントリー 4 僕らが泊まった
 APOLLO APARTMENT。安くてきれ
 いで広くて管理人も超親切で感激！
 5 ドーマン赤土も華麗に決める！

心地良い洗練された田舎、メリンビュラ

赤土、金子、都丸、池田、丸森のメンバーでこのトリップは始まった。メリンビュラは、とても綺麗な新しい雰囲気がありながらもごちゃごちゃしていない、そんな感じの町だった。カキやあわび等の魚貝類がおいしい所らしく、それを出す店も多い。僕は実はカキが苦手。特に生は。でも、ここのカキはおいしかった。着いた初日に、オーガナイザーのジョン・スマイスさんが連れていってくれたカキの店は、ホントにおいしいものばかりだった。これ、カキ好きの人にはたまらないだろうと思う。泊まったコンドミニウムは、アポロアパートという所。これがびっくりするほど快適だった。とっても広い間取りに、部屋と同じ位広いと思わせるバルコニー、ビーチは目の前。そして、このオーナーはとってもいい人で、日本人が来たのが珍しいこともあったのか、何やかんやといろんな食べ物を差し入れてくれた。恐縮してしまうほど、とってもやさしいオーナーだった。

僕らは、基本的にはずっと海にいた。緯度が低いので、日没が遅くて、8時位まで明るい。そういった意味では、風さえあれば、朝6時から夜8時までカイトができることになる。我々が行った時期は、夏前、日本の5月位の感じで、気温のわりには風は冷たかった。3mmのフルスーツとかがちょうどい

い感じだろう。僕らが滞在していた間オフズミに吹いていたメリンビュラのビーチの風下側に、ペンピュラ (Pembula) といういいビーチがあるとの情報を得て、メリンビュラから3~4kmを下りながらそのビーチに向かった。メンバーは、金子、池田、丸森。都丸は大会初日に脱臼が再発し、安静。下りながら移動する間にはずっと波があって、ひたすら波乗りをしながら下っていった。さあ、ビーチについて見ると・・・そこはビーチではなくて、川だった。川なのでフラット海面。かなりいい感じの場所だ。出発した場所よりペンピュラは風が弱めだったので、乗ってきたサイズだとアンダーだったが、ここに合わせたサイズを張れば最高のライディングができるだろう。

サーフボードを持ってくれば良かった

この時期は常に吹くと言われるメリンビュラだって吹かない日もある。風のない日のカイトボーダーは常に暇でしょうがない。我々はいろんな場所を見たくて、あっちへ行ったり、こっちへ行ったり。いろんなビーチを見ては、ここもいいね、あそこもいいね、の連続だった。つまり、どこのビーチも間違いなく、良さそうなのだ。一つ悔やまれたのが、風のない時の為に、サーフボードを持っていけばよかったな、という事。風がない日は波が最高で、しか

も波はそうとう余っている状態だった。ハードすぎない波は、初心者でも大丈夫だ。

オージースタイルで行こう！

実は、僕はオーストラリアのビーチを訪れたのは初めてのことだった。しかも、初めて訪れたのがメリンビュラという、どちらかと言えばマイナーな場所。しかし、大会、環境、人、いろんな事がとても素晴らしいものだった。海は普通に存在し、カイトをするにも、サーフィンをするにも最高のコンディション。自然の生物も、あたりまえのようにそこに存在している。皆、自分のペースでいるんなことをこなしている。(仕事もカイトも) オーストラリアに限ったことではないのだが、海外に行くといつもそんなことを感じる。島というものなら、のんびりしたムードやマイペースな感じになるのも分かる。一年中暖かいというのも、そんなムードを助長している気がする。でも、オーストラリアは小さな島ではない。場所によって、大分違うのだろうが、田舎のメリンビュラは、やっぱりそんなムードだ。日本という国は、小さな国土に対して、人、物、情報、全てが過剰にありすぎるのかもかもしれないね。

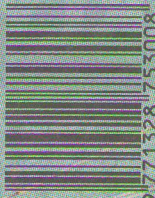
Merimbula NEWS WEEKLY

MERIMBULA PAMBULA TURA

WEDNESDAY DECEMBER 3, 2003

Phone: 6495 3333 Fax: 6495 3323
Email: editorial.newsweekly@ruralpress.com
Web: www.merimbula.yourguide.com.au
Serving the community since 1988

ISSN 1328-7532



MAMBO GOLOUR ACTION Page 72

propertyguide NEWS

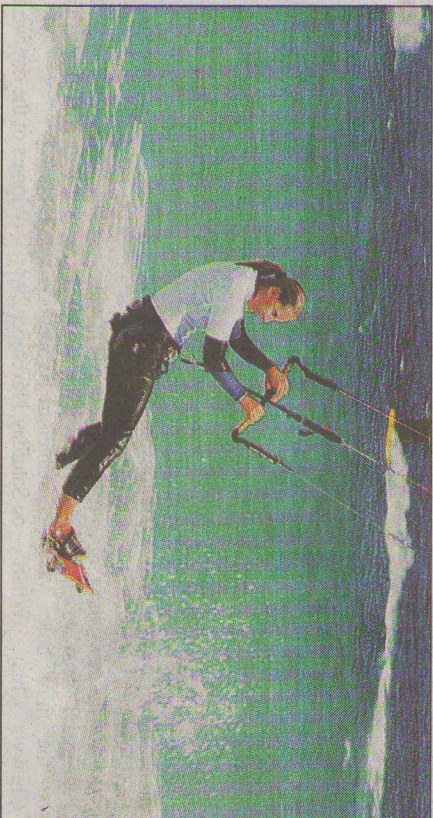
\$1.30 including GST

Sport

Mambo turns radical

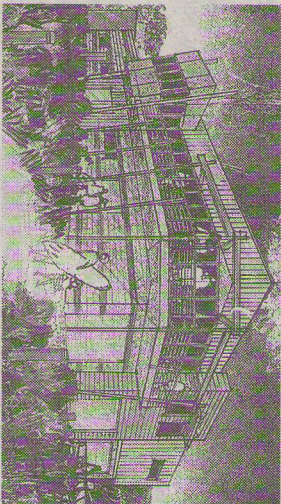


• Western Australian kite surfer junior Daniel Anderson amazed the crowd with his aerobatics. Photo: John Ford



• World title holder Beck Nicholson in action. Photo: John Ford.

Please help us
build a new
Surf Life Saving Club
at Pambula Beach



The following are
helping to build
a new home
for lifesaving at
Pambula Beach



- | | |
|------------------------|---|
| Settlers Cottage | Duncan Dodd |
| Sautelle White Lawyers | Beach Promotion and Marketing |
| Pambula Rotary Club | Arthur and Lois Hook |
| Swan Plumbing Plus | Jack Hay |
| Pambula Supermarket | Bert Peters and Associates (Architects) |
| Video Ezy Merimbula | Pambula-Merimbula Golf Club |
| Merimbula Ice Creamery | Terry Sinclair Electrical Services |
| Fashion Outlet | Turffles Coffee Shop |
| Pambula Newsagency | Peter Newton |
| Stephen Mawby | SL and D Hodgson Builders |
| Ann Wright | Colin Hay Builder |
| Helena Kazanika | Jim Moss Builder |
| Cathy Foster | |
| Robyn Carman | |
| Deriva Coley | |
| Sue Radlinki | |
| Lorraine Philistin | |
| Tim Jacobs | |
| Robyn Amair | |

The 23rd Mambo Merimbula Wavesailing and Wipika Kite Surfing Classic was successful with competitors reveling in excellent conditions, contest organiser John Smythe has said.

"We had more than 200 competitors from around Australia and a big contingent from overseas," Mr Smythe said.

"There was four fantastic days of wind and swell for kite surfers and wave sailors to revel in on Main Beach from Merimbula to Pambula."

Mr Smythe said the competitors had amazed spectators and judges with the high standard of their performances on the water and in the air.

"The kite surfers are now surfing the waves more radically, pulling off manoeuvre after manoeuvre on the waves."

"They are also performing spectacular aerobatics, to the crowd's delight."

Mr Smythe said this year's event was the windiest in 15 years but competitors had taken the conditions in their stride and not complained during the four-day long event.

The 23rd Mambo Merimbula Wave Sailing and Wipika Kite Surfing Classic results

Kitesurfing Open:

- First: Stewie Martin, Newcastle;
- Second: John Messenger, Palm Beach;
- Third: Ben Wilson, Merimbula;
- Fourth: Darren Marshall, Sans Souci;
- Fifth: Matt Tobin, Southport;
- Equal sixth: Rich Stenning, Sydney and Beau Moulson, Narrabeen.

Masters:

- First: Jeroen Roodenburg, Netherlands;
- Second: Troy MacNaughton, Dee Why.

Veterans:

- First: Andrew Reagan, Newcastle;
- Second: Seigo Akado, Japan.

Legends:

- First: Terry Gallagher, Kiama.

Local:

- First: Darren Vincent;
- Second: Glen Brunette.

Junior:

- First: Daniel Anderson, WA;
- Second: Michael Norton, Melbourne.

Women's:

Mary Belmain	Andrew Mersman and Associates
Faye Dewater	Frank Davey Bricklaying
Sue Pine	Max and Maureen
Pambula Rotary Club	Andrew
Rob Butta	John and Dorothy Diggle
Eden Lioness Club	Peter and Nicole Gordon
Fiek & Nagle First National Real Estate	Plastering Service
Wayne Kent	Nic's Crane Hire
Rob McGregor	K.Hewitt
Bega Valley Medical Practice - Dr. D Mckinnon	Bristol Paint & Decorator Centre
Peter Reid	Paul Brand
Metroopolitan Caloundra SASC	John & Margaret Liston
Bronte SLSC	Red Rock-Conrdi:SLSC
Merimbula 2000 Spring Carnival Committee	Aquarius Apartments Pambula Merimbula Lons club
Bob & Norma Emms	Les & Joan Sullivan
Simon Emms	Barry Aspinall
Robert Cowper	Royal Volunteer Coastal Patrol - Merimbula
Tony Shaw	Community Donation
Dean Thompson	(There was a substantial donation from a local organisation that wished to remain anonymous)
Joan Paterson	Merimbula RSL Club
Bega Valley Shine Council (Russell Smith Dinner)	Tathra Surf Life
WA & JIM Geddes	Saving Club
Jim Brabazon	Joy & Cameron Holt
Russell & Lesley Smith	Marion & Bill Crowther
Trubuit Joinery	Des & Bernice Gibson
Deborah Burville	Peter Cash
Andrew Constance	Chris Manning
Coogee Beach SLSC	Whale Beach Surf Lifesaving club
Pambula Medical Centre	Eddie Collins
Broolue Surfers SLSC	
Cecil Stone	
National Australia Bank (Merimbula)	
Ron and Barbara Hay	

Thanks to the Merimbula News Weekly, we will be able to list supporters of this project each fortnight until construction starts. For information on this project contact: use by phone, fax or email on the details below.

Proudly supported by

Merimbula NEWS WEEKLY

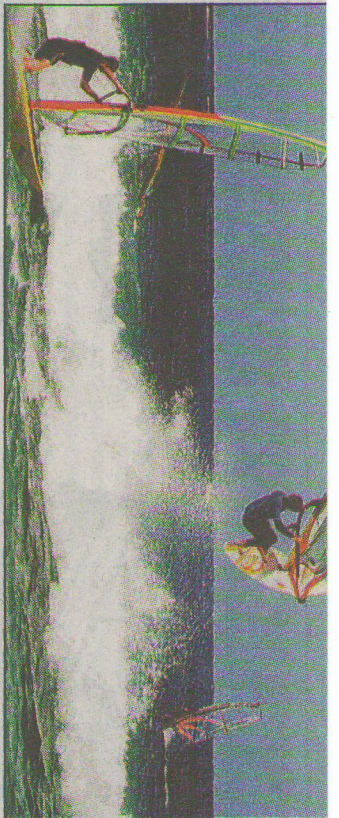
Post: P.O. Box 32, Pambula

Fax: 6495 6990

Email: dnhjoy@esits.net.au

Phone: 0427 956 674

Want to help?



• Junior wave sailor Ben Fawkes flies high off Main Beach. Photo: John Ford.



• Stewie Martin's kite surfing skills won him first place. Photo: John Ford.



• A sea of kites and wave boards covered Main Beach. Photo: Peter Wolfe.

First: Beck Nicholson, Noosa;
Second: Tina Harrison, WA.

Wave Sailing:

Open:

First: Dan Berry, Bondi;
Second: Ricky Van De Toorn, Merimbula;
Third: Matt McKenzie-Smith, Merimbula;
Fourth: Dean Hendry, Newcastle;
Fifth: Luke Johnson, Central Coast.
Award: Gary McKenzie-Smith

Tasmania:

Juniors:

First: Luke Johnson, Central Coast;
Second: Ben Fawkes, Central Coast.

Women:

First: Carolyn Nugent, Merimbula;
Equal second: Cassie O'Brien-Grudd, Merimbula and Kelly Whiteman, Merimbula.

Masters:

First: Rohan Cudmore, Sydney;
Second: Mathew Cudmore, Merimbula;
Third: Jason Juretic, Sydney.

Veterans:

First: Lloyd Ellis, Nambucca Heads;
Second: Steve Myers, Central Coast.

Legends:

First: Warren Holder, Kiama.

Special awards:

Jamie Symonds, Liquid Force board; Alex Lewis-Hughes, Caution kite; Jason King, Cabrinha board; Matt Darcy, Kitehaven kite; Carolyn Nugent, Wipika kite.



• Western Australian junior wave sailor Luke Johnson also reached fifth place in the open section. Photo: John Ford.

Email: editorial.newsweekly@ruralpress.com

カイトボードで世界2位

豪の国際大会ベテランクラス

オーストラリアで開かれた布製のタコ(カイト)を使ってサーフィンボードを操る技を競う「カイトボード」

三国の赤土さん健闘

操縦に工夫、高評価

帰国して、自宅で書いていたのがうれしかった。

びをかみしめながら赤土さんは「入賞を狙っています」と意欲を示し

大会は先月二十七日 郊外のリゾート地、メリンブラの海岸で開か

ストライアのシドニー に出場。競技は大会は

れた。カイトボードとボードセーリングの二部門に、同国やオランダ、ニュージーランド、日本などから計約二百人が参加した。

赤土さんは、カイトボード部門の40〜50歳までのベテランクラス

の国際大会で、三国町米ヶ脇のサーフィショップ経営赤土

正剛(せいこう)さん(四十四)が2位に入賞した。参加した日本人五人のうち、ただ一人アマチュアとして出場。上

位に入賞した健闘ぶりに多くの関係者から称賛の声が寄せられ、地元新聞にも記事が掲載された。

地元新聞にも称賛記事

通して行われ、海面から空中に離れることができた高さ、空中での回転数、波の乗り方などを競い合った。

実際の競技の際には、風の強さに合わせ、風の強さに合わせ、風

は、風の強さに合わせ、風の強さに合わせ、風の強さに合わせ、

赤土さんは、ボードセーリングでは、過

る。うまく風に乗れば、ワールドカップで

海上十層の高さまで舞い上がることもできる

が、経験に負つたところは、三年前か

も多く、体力を温存しながら、いかに審査員

にアピールするかがポイントとなる。

赤土さんは、他の選に組み組んで

手がパフォーマン

る。赤土さんは、他の選に組み組んで



現地の新聞を見せながら大会を振り返る赤土正剛さん(三国町米ヶ脇五丁目)